各地の
たより

大阪プラネタリウムだより

6月の話題——北極の空，黄道十二宮

大阪プラネタリウム
京都・京星會

「友よ來れ！ 北極星の下で語らん」，「晝間は長い，半年間だ！」，「一層のこと，星空の下に，星を仰ぎ，星を語り，星と暮す夜は如何」．北極の友から來た信り？ 徹夜をしたら恐ろしいことだ，極地の夜は6ケ月も續く．……これが事實としたら，直ぐにも訪ねてみたい，極地への憧れ．夏は太陽は地平線上に廻り，冬は北極星が天頂に輝き，數多の恒星が，この極星を中心に大圓を描く．この不思議な北極の空を訪ねて，四ツ橋の電氣科學館に來る人々も，近頃は眞面目である．

去る日，大阪の會員で，電燈照明專門の山崎幸夫氏（バグナル社員）が，オーロラの映寫機を持參された．目下關係者が眞實の極光現象を映出するべく研究中である．

或る日，市内の小學校の先生が，黄道上の太陽の運動に就いて，熱心な態度で，プラネタリウムで季節による日出・日沒や南中の方位の變化を研究して歸られた．こうした研究家には，特別な便宜を與へられるのは言ふまでもない．

6月15日から夜間公演（19時30分より）が開始された．毎日ドーム内は爽快な冷房が行はれてゐる．涼しい暗いドームで美しい星空を仰ぐと，思はず10月の半ば頃のあの好季節の夜の心持がする．この夜間講演には特別映畫が上映されて，興味は盛り澤山である．今から7月講演の「七夕の空」と「銀河の話」の痛快さが期待されてゐる．

山本博士は，大阪プラネタリウムの多數の紹介寫眞の持參して歐米へ出發された．今春から毎日各地學校の見學團體が押し寄せて，係員も大童であるが，兎に角，科學館の普及されたことは國内は勿論，海外の來觀者が續くのをみても，既に全國的になつたことは事實である．

8月の話題 ★ 月・月の運動

夜空を美しく飾るは月，非喜交々の思情をそゝるも月，この月の世界を巡る興味の諸相．

★會誌「京星」第18號　依頼中の原稿が少し遅れて發行は7月末の豫定である．目次は次の通りで100部發行，本號で今年度の會誌を完了．

太陽を構成する原素—花山天文臺　柴田淑次，　金星の自轉時間—木邊成麿，　星座漫筆—ヰリアム・エチ・ピカリング，　北海道の日食の接觸觀測とその結果—東京天文臺　石井重雄，　アマチユアー天體寫眞術—伊達英太郎，　星座の日本名に對する私見—西森紀久雄，　景氣と太陽黑點—吉岡生，　寺田博士の「新星」—佐々木正，編輯後記．

★第5年度を迎へるに對し　昭和9年9月，京都の若い同好者の結合によつて生れた，さゝやかな"**天文を樂しむ者の集ひ，京星會**"は，强固な友情と學に對する眞摯な態度を以て次ぎ次ぎと同好者を迎へ，數ケ月の内に50名を越す團體となつた．其後會員の增加と會の存在意義を自覺し會則の改正がなされ，(1) **天文同好者の親睦**，(2) **天文趣味の助長，觀測研究の指導**，(3) **天文學の普及發達**を目的とする事となり，組織の改正がなされ，各方面に事業の擴張が計られ，眞面目な活動が續けられて來た．

會の範圍は事業の一項目として發行される會誌，天文急報に寄せられる期待により漸次全國的となり，現在に於ては會合による近畿會員の團結と，會誌に連なる全國會員の支持，更に專門家諸先輩の指導援助によつて，同好者の協力になる1個の有力な存在となつてゐる．

去る6月，東亞天文協會の本部並びに事務所が京都を離れ，廣島縣，滋賀縣に移り，來る9月よりの京星會第5年度に對し，會の執るべき將來の方針決定の役員會が開かれ，唯一の"**京都を中心とする同好者團體**"として益々内容の充實と會の發展に努力する事が誓はれ，第5年度の計畫を定時總會に計り，その結果事業各部門に旺盛な活動が開始される豫定である．各方面同好者諸氏の御期待と御協力を望む．（總務部長　吉岡久男）

編輯後記　權威ある良心的な雜誌!!　誤字は皆無で，發行日は遅れない!!　こんな事を念願としながら編輯して來た．原稿を睨みながら初校から再校へ，更に三校へ，校了になつてホッとする間もなく次號の編輯だ．編輯と云つても集まつた原稿の選擇，配列なら樂だが，原稿の依頼から製作までせねばならない．選擇も自由に任されるならよいが或る支配を受ける．振返つて唯恥しいだけだ．痞せて神經衰弱になるのも當然である．幸ひ山本先生にお引受をしたと事ので，木邊成麿氏が後を一切受けて下さる事になつた．9月號から大いに期待して戴きたい．力足らず御期待に副ひ得なかつたお詫まで．（宇野）